

お手頃な夏を、お休みなさい。

# バスの足、充足旅行



友達とふたり、ふらり東京一日旅行に出発。旅の足は、都バスと、私たちが誇れる足たち。気まぐれな思い付きでも、充足のムカデ旅行でした。  
文●角丸泰子 写真●中川道夫



東京に住んでいても、日頃バスに乗らない人って意外に多いんじゃないだろうか。実は私もその一人。だって、どのバスが目的地のそばを通るのかよくわからないし、道路の込み具合によってはすごく時間がかかるかもしれないし……。  
だからこそ、夏休みになったらのんびりバスで都内を回ってみたいと思っただけで、待てよ、それならバスを乗り継いで、前から気になっていた美術館や博物館巡りをしてみたい。バス路線図をにらんでプランを立て、いよいよ実行の日が来た。  
まずは泡袋に出てサンシャイン国際水族館へ向かう。ここはビルの10階にある、世界でも珍しい高層水族館だ。まるでタキシードを着込んだような黒と白のイロワケイルカ(通称バンドウイルカ)。イワシの大群。あつ、向こうの水槽にはラッコがいた。餌をもらおうと、くるっとおお向けになって大事そうに両手で抱えて食べている。写真よりずーっと可愛い。見ているほうもシャワーでも浴びたみたいに涼しくなって池袋駅東口に戻り、都02乙の文教区役所行きバスに乗る。  
次の予定は、護国寺前のバス停から近い「オルゴールの小さな博物館」。1780年代から現在までの、250台ものオルゴールが収集されている。それもただ見るのではなく、演奏時には実際に音を聴けるのもうれしい。装飾音の多い華やかな音色、どことなく懐かしい素朴な音色……蓄音機の登場によって音楽再生装置としての役目を終えたといわれるオルゴールだが、CDなどの精緻な再生音にはない手づくりのぬくもりが伝わってくるような気がした。

上野松坂屋行きバスで不忍通りを行く。この通りは以前、都電が走っていたとか。窓の外を眺めていると、新宿や渋谷ではあまり見かけない小さな商店が次々に現れる。○洋品店とか△写真館とか、看板を読むだけでも楽しい。乗客もお年寄りや子ども連れが多く、車内にはのんびりした空気が漂っている。  
おっと、うとうととしてるうちに千駄木3丁目のバス停。ここからよみせ通り、谷中銀座を通過して朝倉彫塑館へ。彫刻家・朝倉文夫が自ら設計したアトリエ兼住まいだが、今も当時のままに残された書斎や居間に足を踏み入ると昭和の初めにタイムスリップしたよう。どの部屋もそれぞれ趣きがあるけれど、とりわけ庭に面した茶室は一口中ばんやり木でも読んでいたぐらい居心地がいい。一度はこういう古い家に住んでみたいなあ。  
古いといえば、谷中には至る所に昔のたたずまいが残っている。お店にしても、江戸千代紙の「いせ辰」や台湾産の木の実から作るゼリーが店名になった「愛玉子」など、なんだか不思議な世界。それから「マイタウン」のランチや谷中銀座の中間にある鈴木精肉店で買った揚げたてのコロッケ、大名博物館そばの芋甚の自家製アイスモナカ。全部おいしくて感激!  
路地から路地へ歩き回って足が棒になったら、根津駅前を上60の上野公園行きバスをつかまそう。やがて左手の視界が急に開けたと思ったら、そこが終点・不忍池。お疲れさま。それにしても、今日見たような風景はJRや地下鉄にはかき乗ってたんじやなかなかお目にかかれな。うーん、バスって奥が深い。さっそく次のコースを企画しなぐらや。



下町の路地に入ると心が和みます



谷中の急坂、西日がまぶしい



芋甚のアイスモナカ、おいしいよ



快適、ランルン、バスの旅



終点の上野公園池で、小さな橋を歩きます



朝倉彫塑館(☎03-3821-4549)。静寂のひととき



朝倉彫塑館で芸術家の魂にふれよう



マイタウンで、お味噌汁と揚げたてのコロッケ



サンシャイン国際水族館(☎03-3989-3466)のイロワケイルカ



都02乙の都バスに乗り込む



オルゴールの小さな博物館。演奏時間が開館時間なので予め電話で確認を(☎03-3941-0008)



マイタウン(☎03-3822-8409)のオムライス



終点で店員さんに手を握られる